

## 第2章 環境の現状

### 第1節 焼津市の概況



#### 1-1 | 市の位置・地勢

##### ▼可住地面積の割合は 94.5%です

本市は、静岡県中央に位置し、東は駿河湾を臨み、西は藤枝市、南は大井川を挟んで吉田町と島田市、北は静岡市と接しています。

市の面積は 70.3km<sup>2</sup>、南北に細長い形状をしており、駿河湾に臨む 15.5km の海岸線を有しています。市北部には高草山や花沢山などの山地がありますが、南は海岸線に沿って平坦な志太平野であり、可住地面積割合は 94.5%（県平均は 35.4%）となっています。



市役所からの眺望

##### ▼陸・海・空の交通ネットワークが充実しています

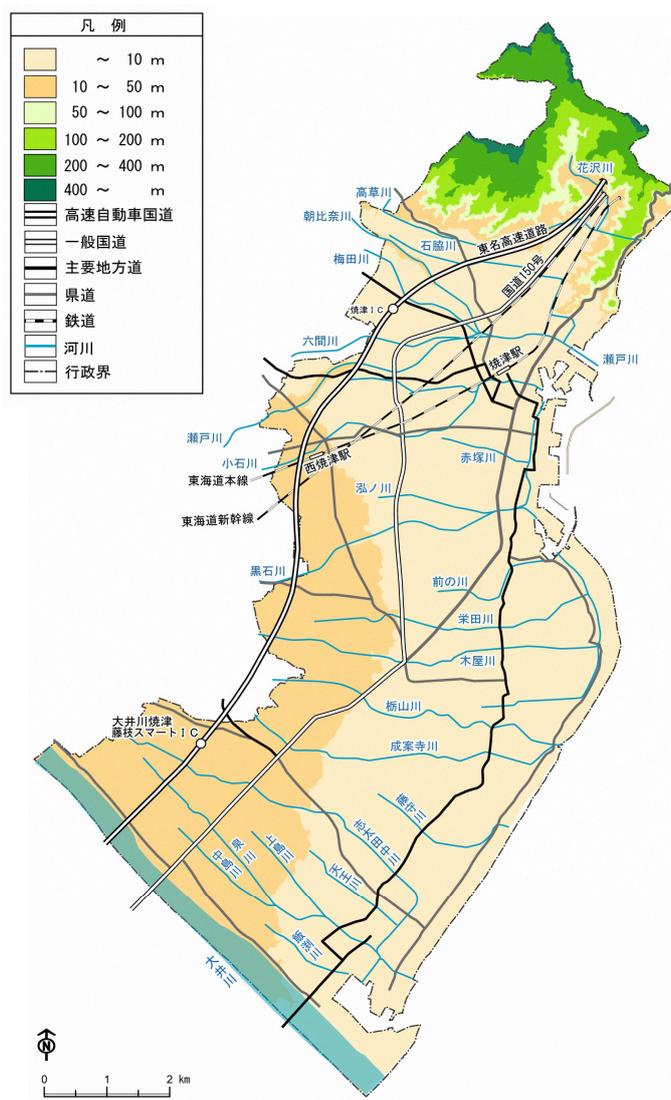
本市への玄関口として、JR 東海道本線に焼津駅、西焼津駅の 2 駅、東名高速道路には焼津 IC と大井川焼津藤枝スマート IC があり、富士山静岡空港からは、市域のほとんどが 20km 圏内に位置しています。また、水産業を起点に発展した本市は、県管理の特定第 3 種漁港である焼津漁港、市営港湾の大井川港を有し、港と共に発展してきました。

このように、本市は陸、海、空ともに交通・輸送の利便性に優れています。

##### ▼平地が多くを占め、高草山などの山地はわずかです

本市の地形は、山地は市内最高地点である高草山や満観峰、花沢山、虚空蔵山などで構成され、市の北部に位置しています。特に、高草山は、山腹が急斜面であることが特徴となっています。

市の中部から南部にかけては、平地であり、瀬戸川及び朝比奈川沿いの低地と大井川扇状地によって形成されています。瀬戸川と朝比奈川が山中から低地にさしかかる地帯では、本流の脇に自然堤防が発達しています。



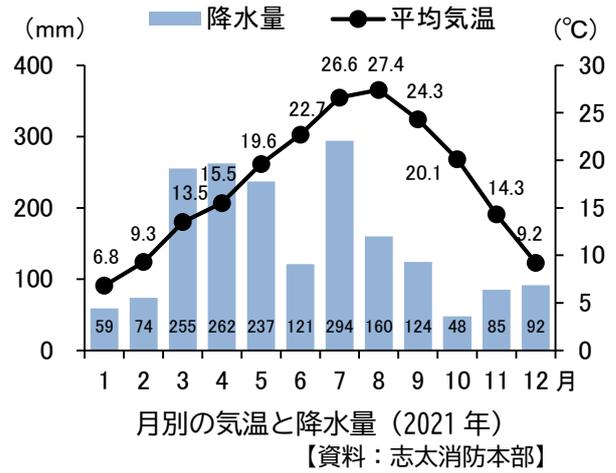
本市の地形と交通の状況

## 1-2 | 気象

### ▼穏やかな太平洋型の気候です

本市は、太平洋型の気候区分に属し、駿河湾沿岸地域特有の穏やかな気候を示しています。

2021（令和3）年の年平均気温は17.4℃、降水量は年間1,810mmで4～7月が多くなっています。夏季は南西風が卓越し、冬季は西風がやや強く、春秋には「ならい」と呼ばれる北東の風が吹くことがあります。

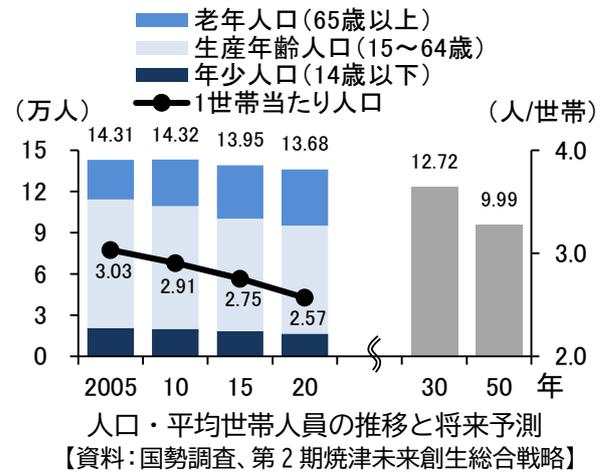


## 1-3 | 人口

### ▼少子化・高齢化・核家族化が進んでいます

国勢調査及び「第2期焼津未来創生総合戦略」によると、本市の人口は2010（平成22）年をピークに減少に転じ、2020（令和2）年は136,845人です。年齢階層別では、年少人口（0～14歳）が減少して少子化が進み、老年人口（65歳以上）が増加して高齢化が進んでいます。人口予測としては、2030（令和12）年に127,169人、2050（令和32）年に99,925人になるものと推定されます。

2020（令和2）年の世帯数は53,243世帯で増加傾向にあり、平均世帯人員は2.57人/世帯と核家族世帯や単身世帯などが増加しています。

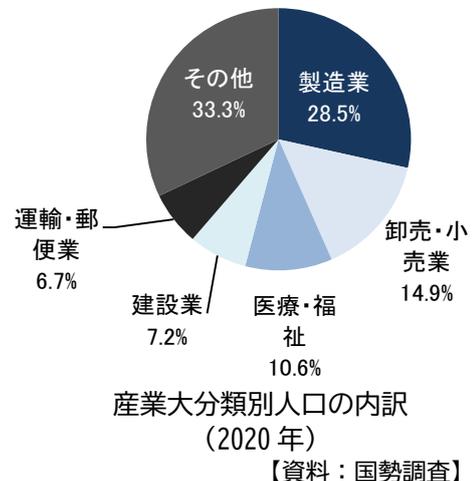
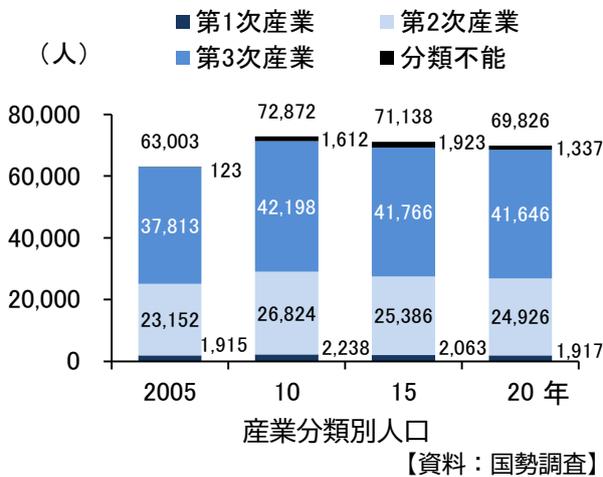


## 1-4 | 産業

### ▼第3次産業が全体の約6割を占めています

2020（令和2）年の産業別人口は、第1次産業が1,917人（2.7%）、第2次産業が24,926人（35.7%）、第3次産業が41,646人（59.6%）であり、第3次産業が全体の約6割を占めています。

一方、産業大分類別人口の内訳をみると、製造業（28.5%）が最も多く、次いで卸売・小売業（14.9%）、医療・福祉（10.6%）が多くなっています。

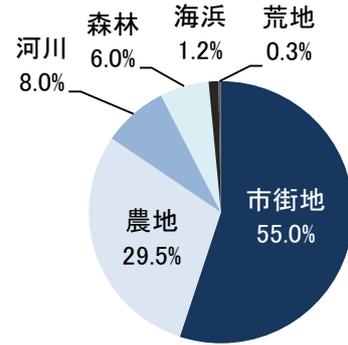


## 1-5 | 土地利用

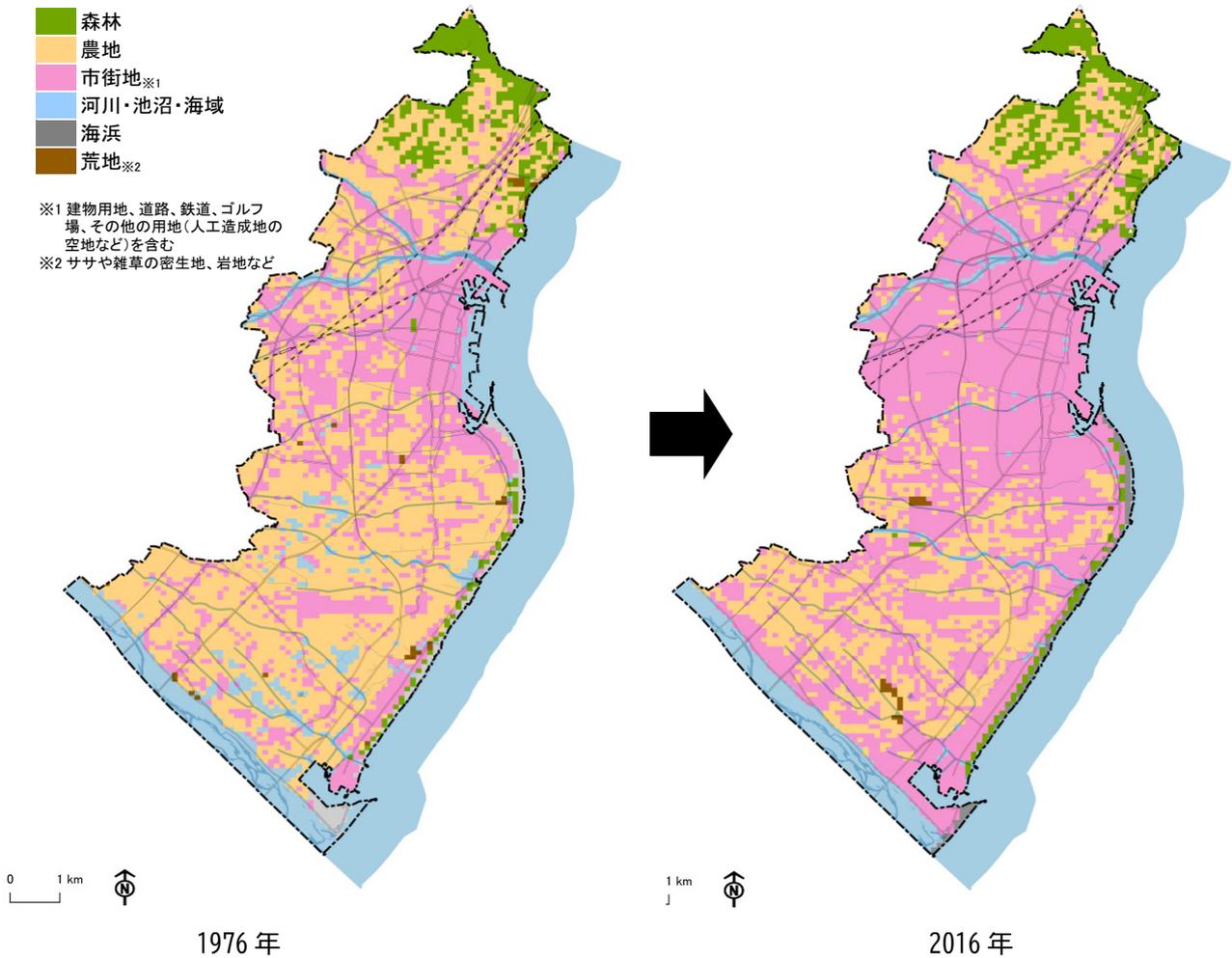
### ▼農地が減少して市街地が拡大しています

国土交通省の「土地利用細分メッシュデータ」によると、本市における土地利用面積（2016（平成28）年）は、市街地（55.0%）が半数以上を占めており、次いで農地（29.5%）、河川（8.0%）、森林（6.0%）でした。

1976（昭和51）年と2016（平成28）年の土地利用面積の変化をみると、市街地は約1.8倍に増加し、農地は約半分に減少しました。低地に広がっていた水田の多くが市街地に変化したことが分かります。水田が減少することで、カエルやトンボ、ドジョウなどの生物の生息地が失われるとともに、周辺の気温の上昇、治水能力の低下、田園景観の喪失などの影響が懸念されます。



土地利用面積（2016年）  
【資料：国土数値情報 土地利用細分メッシュデータをもとに作成】



- 森林
- 農地
- 市街地※1
- 河川・池沼・海域
- 海浜
- 荒地※2

※1 建物用地、道路、鉄道、ゴルフ場、その他の用地(人工造成地の空地など)を含む  
 ※2 ササや雑草の密生地、岩地など

### 土地利用の変遷

【資料：国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ】

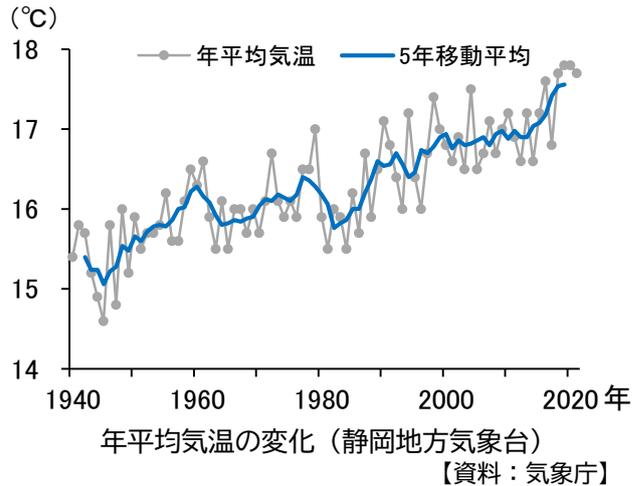
## 第2節 脱炭素社会



### 2-1 | 地球温暖化

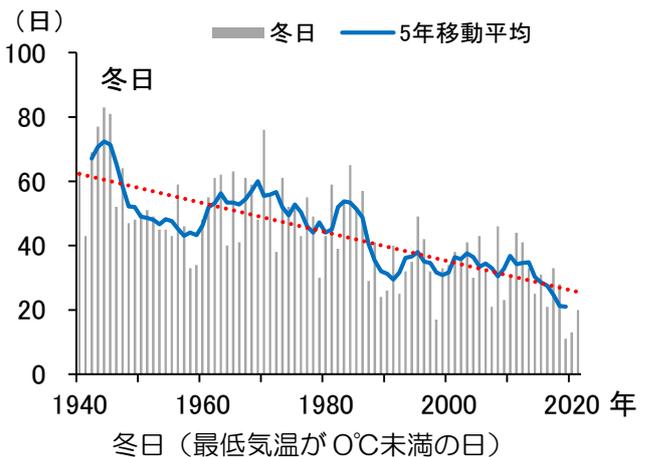
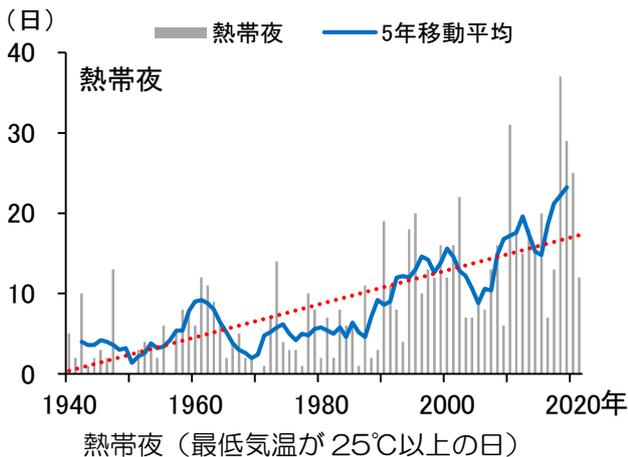
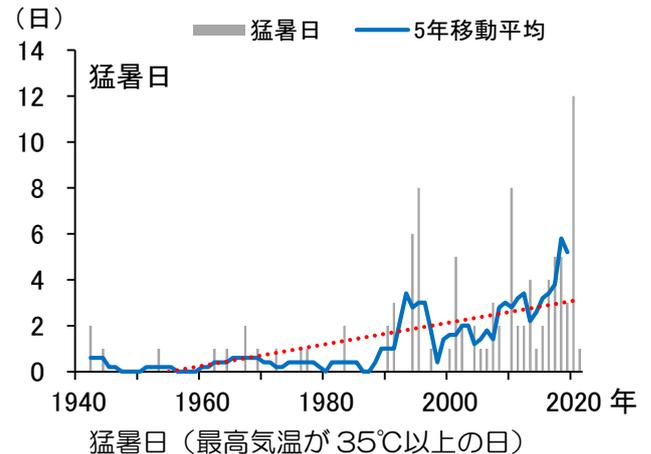
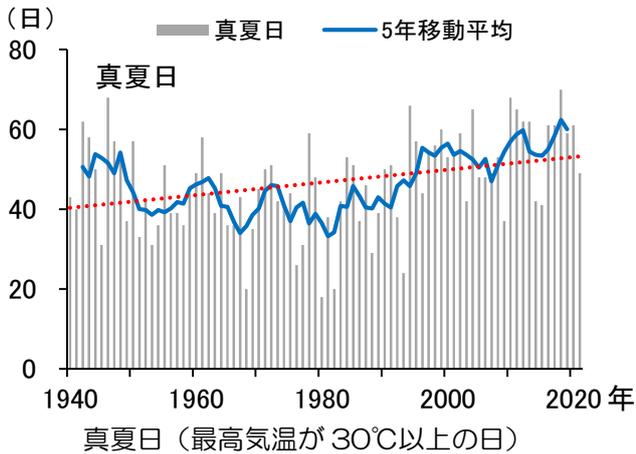
#### ▼平均気温が上昇しています

本市の最寄りの気象観測地点である静岡地方気象台（静岡市）の観測データによると、1940（昭和15）年以降、80年間で平均気温は約1.5℃上昇しており、日本の平均気温の上昇（100年あたり1.26℃）よりも大きくなっています。これは、地球温暖化による長期的な上昇傾向に、ヒートアイランド現象の影響や数年～数十年程度の時間規模で繰り返される自然変動が重なっていると考えられます。



#### ▼真夏日・猛暑日・熱帯夜が増加し、冬日が減少しています

静岡地方気象台の観測データによると、真夏日や猛暑日、熱帯夜は増加し、冬日は減少しています。



注）熱帯夜は夜間の最低気温が25℃以上の場合を指しますが、ここでは日最低気温が25℃以上の日として扱っています。

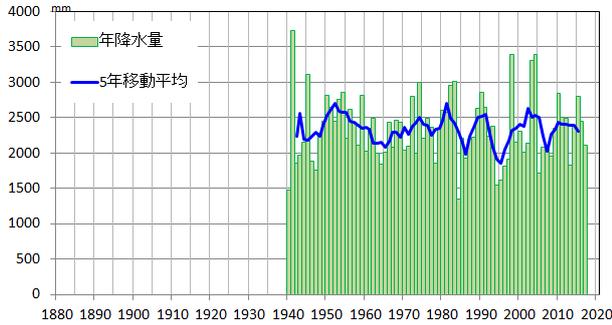
真夏日・猛暑日・熱帯夜・冬日の変化（静岡地方気象台）

【資料：気象庁】

▼降水量の変化はありませんが、全国的には短時間強雨が増加しています

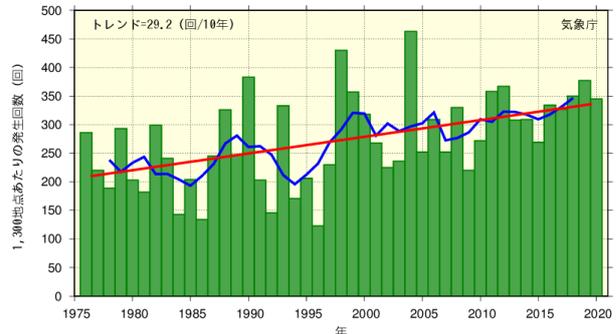
静岡地方気象台の年降水量は、年ごとの変動幅が大きく、はっきりした傾向はありません。

静岡県における1時間降水量50ミリ以上（短時間強雨）の発生回数は、年ごとの変動幅が大きく、はっきりした傾向はありませんが、全国の年間観測回数（+29.2回/10年）は増加傾向にあります。



年降水量の変化（静岡地方気象台）

【資料：静岡地方気象台ウェブサイト】



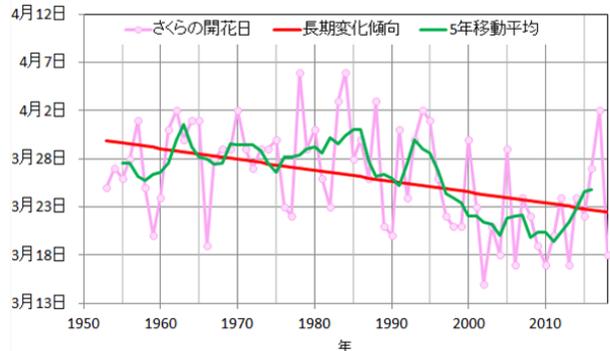
1時間降水量50ミリ以上回数の変化（全国）

【資料：静岡地方気象台ウェブサイト】

▼さくらの開花など、生物季節に影響が出ています

気象庁では、植物の開花・満開、紅葉の時期などの「生物季節」を観測しています。静岡地方気象台のさくらの開花は1953（昭和28）年以降、50年間あたりで約6日早まっています。

さくらの開花日が早まる傾向は、これらの現象が発現する前の平均気温との相関が高いことから、これら経年変化の特徴の要因の一つとして長期的な気温上昇の影響が考えられます。



「そめいよしの」の開花日（静岡地方気象台）

【資料：静岡地方気象台ウェブサイト】

▼21世紀末までに、平均気温は最大4～5℃上昇すると予測されています

国立環境研究所の予測によると、厳しい温暖化対策をとらなかった場合（RCP8.5）の21世紀末（2091～2100年）の予測結果は以下のとおりです。

年平均気温は4～5℃上昇し、猛暑日・真夏日が増加するとともに、日降水量50mm/日以上の日数が増加すると予測されています。

21世紀末（2091～2100年）における気温・降水量の予測結果（焼津市）

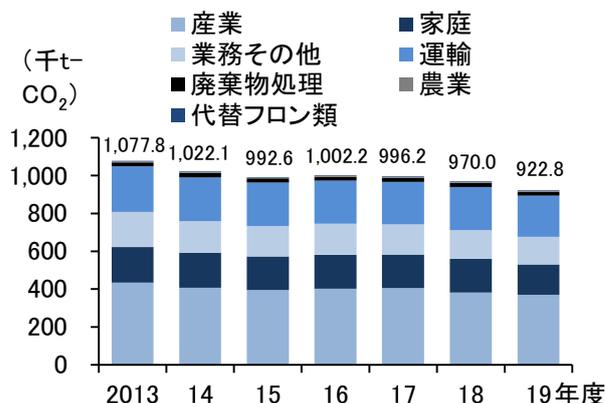
項目	予測結果
平均気温	基準期間（1981～2000年）より+4～5℃上昇する
降水量	基準期間（1981～2000年）より1.1～1.2倍増加する
猛暑日日数	基準期間（1981～2000年）より+10～50日/年増加する
真夏日日数	基準期間（1981～2000年）より+50日/年以上増加する
日降水量50mm/日以上の日数	基準期間（1981～2000年）より+2～4日/年増加する

【資料：国立環境研究所「CMIP5をベースにしたCDFM手法による日本域バイアス補正気候シナリオデータ」（NIES2019 ver201909）、気候変動適応情報プラットフォーム】

▼市域からの温室効果ガスは減少しています

焼津市全域の2019（令和元）年度の温室効果ガス排出量（速報値）は922.8千t-CO<sub>2</sub>で、基準年度である2013（平成25）年度の排出量と比べると14.4%減少しています。

分野別排出量は、産業部門が40.0%と全体の4割を占め、次いで運輸部門、家庭部門、業務その他部門となっています。また、基準年度と比較すると、廃棄物処理、代替フロン類以外は減少しています。

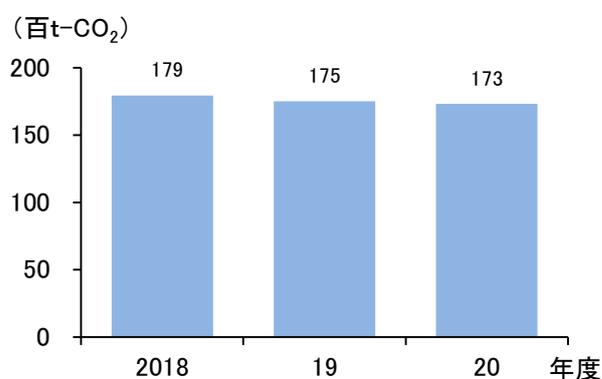


焼津市全域からの温室効果ガス排出量の推移  
【資料：第3次焼津市環境基本計画策定業務報告書】

▼市役所でも地球温暖化対策を進めています

市役所では「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、2022（令和4）年3月に「焼津市役所地球温暖化防止実行計画（事務事業編）－第6期計画－」を策定し、市役所の事務事業から発生する温室効果ガスの削減に取り組んでいます。

また、環境への取り組みを効果的・効率的に推進していくため、2009（平成21）年10月から環境マネジメントシステム「エコアクション21」に取り組み、2010（平成22）年10月に市役所本庁舎、大井川庁舎などが認証登録されました。その後、認証登録範囲を拡大し、現在は市立総合病院を除く全施設で認証取得しています。



市役所の事務事業からの温室効果ガス排出量  
【資料：焼津市の環境】

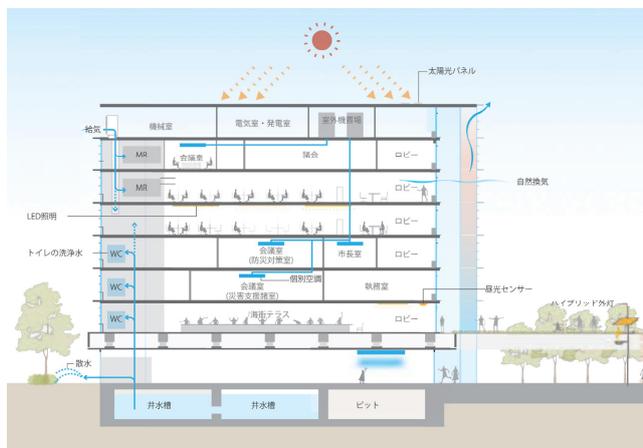
コラム



新庁舎の環境配慮

2021（令和3）年9月21日に開庁した市役所新庁舎は、「官庁施設の環境保全性基準」（国交省）を参考とし、省エネルギー・省資源、エコマテリアル等を考慮し、環境負荷の低減と周辺環境の保全に配慮した庁舎としました。

- 自然採光や自然換気を考慮
- 太陽光や太陽熱など自然エネルギーの活用や高効率機器の採用による省エネルギー化
- 建物の断熱性能を向上させ、環境負荷の少ない材料、リサイクルが容易な材料等を採用
- 建築物の環境性能の評価基準である「CASBEE 静岡」における「Aランク」を取得



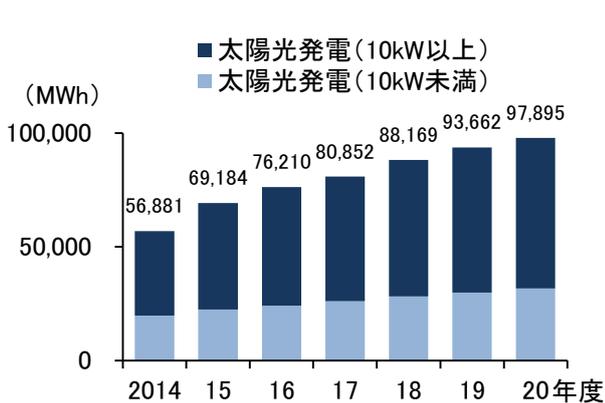
【資料：焼津市新庁舎基本設計】

## 2-2 | 再生可能エネルギー・省エネルギー

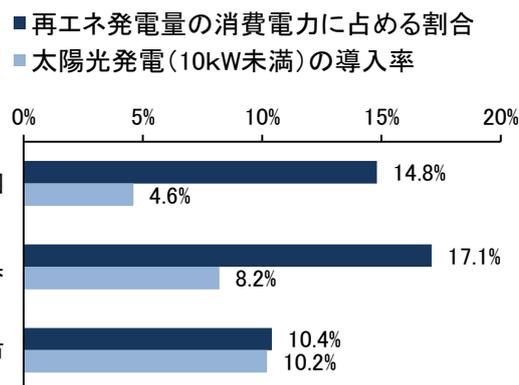
### ▼再生可能エネルギー発電量は、市内電力消費量の約10.4%に相当します

「固定価格買取制度情報公表用ウェブサイト」によると、本市の2020（令和2）年度における再生可能エネルギー発電の導入容量は約76MWであり、全て太陽光発電です。このうち、10kW未満（主に家庭用）の発電容量が約26MWで、全体の約34%を占めています。

環境省「自治体排出量カルテ」によると、本市の2020（令和2）年度における再生可能エネルギー発電の年間想定発電量（ポテンシャル量）は97,895MWhであり、これは2020（令和2）年度の本市全域における電力消費量941,712MWhの10.4%に相当します。これは、全国（14.8%）及び静岡県（17.1%）よりも低い割合となっていますが、太陽光発電（10kW未満）の導入率10.2%は、全国（4.6%）及び静岡県（8.2%）よりも高くなっています。



再生可能エネルギーの年間想定発電量  
【資料：固定価格買取制度情報公表用ウェブサイト、自治体排出量カルテ、REPOS】



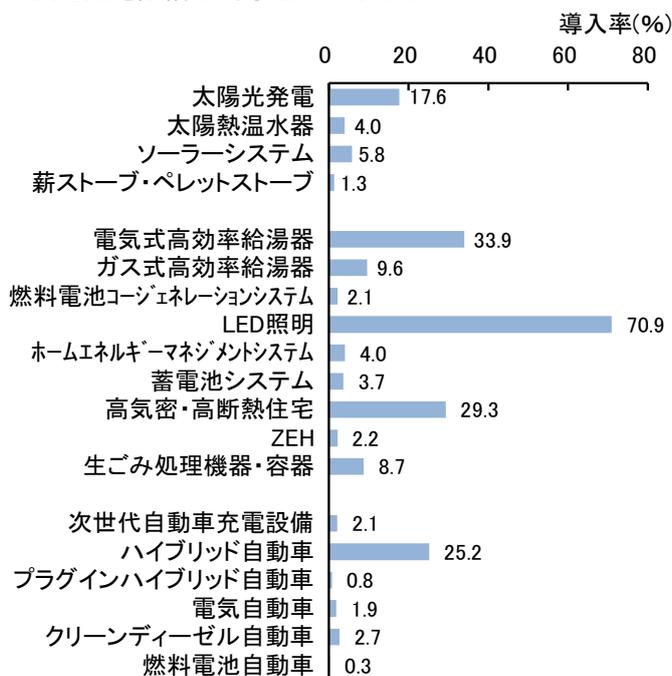
再生可能エネルギーの比較 (2020年度)  
【資料：固定価格買取制度情報公表用ウェブサイト、自治体排出量カルテ、REPOS】

### ▼再生可能エネルギーと環境との調和のための条例を施行しています

本市では、再生可能エネルギーと環境との調和を図ることを目的として「焼津市自然環境等と再生可能エネルギー発電設備設置事業との調和に関する条例」を2020（令和2）年1月から施行しました。事業区域が1,000㎡以上の太陽光発電設備、高さ10m以上の風力発電設備が対象となります。

### ▼LED照明の導入が進んでいます

「第3次焼津市環境基本計画に関するアンケート調査」（市民）の結果によると、再生可能エネルギーや省エネルギー施設のうち、導入が比較的進んでいるのは、「LED照明」（70.9%）、「電気式高効率給湯器」（33.9%）、「高気密・高断熱住宅」（29.3%）、「ハイブリッド自動車」（25.2%）などです。



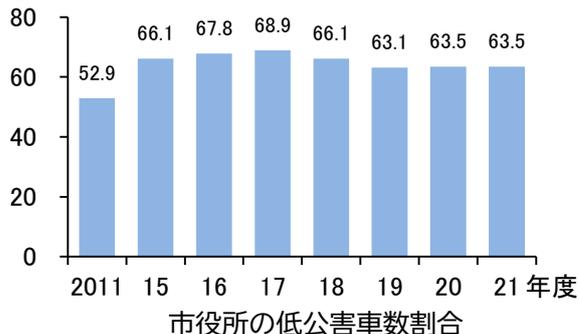
### ▼本市は国民運動 COOL CHOICE に賛同しています

本市は環境省が提唱する地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE」に賛同し、地球温暖化対策の取り組みを推進することを2019（令和元）年6月5日に宣言しました。

再生可能エネルギー・省エネルギー施設の導入状況  
【資料：第3次焼津市環境基本計画に関するアンケート調査（2021年9月）】

▼市役所の低公害車数割合は横ばい傾向にあります (%)

焼津市役所の低公害車数割合は、2021（令和3）年度は63.5%で、2017（平成29）年度の68.9%をピークに横ばい傾向にあります。これは特殊車両である浄化槽汚泥収集車などの増車があったことが影響しています。



【資料：焼津市の環境】

▼焼津市役所は「エコ通勤優良事業所」として認証登録されています

市職員の通勤手段を自動車から環境負荷の少ない電車やバスなどに利用転換する「エコ通勤」の取り組みが評価され、「エコ通勤優良事業所」として認証登録されました。具体的には、焼津市役所の全職員を対象として、日常的にノーカーチャレンジに取り組んでいます。取り組みについては毎月各課で集計し、四半期ごとに取り組み結果として「月ごとのCO<sub>2</sub>削減量」のほか、課ごとの「実施回数ランキング」や「CO<sub>2</sub>削減量ランキング」を公表しています。



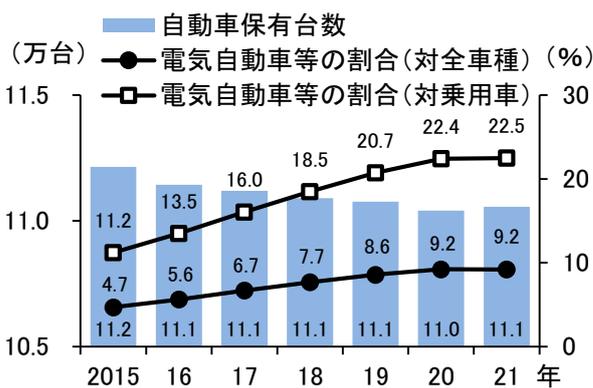
認証マーク

2-3 | 交通

▼電気自動車等は増加傾向ですが、県平均をやや下回ります

近年、本市の自動車保有台数は減少傾向にあり、2021（令和3）年は110,560台です。

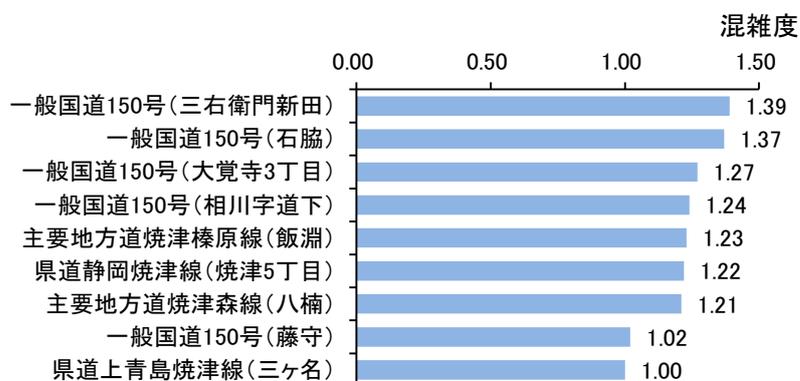
電気自動車等（電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、ハイブリッド自動車）の台数は増加しており、2021（令和3）年4月1日現在の台数は10,201台です。全車種に占める割合は9.2%、乗用車に占める割合は22.5%であり、県平均（9.7%、22.7%）を若干下回っています。



自動車保有台数と電気自動車等の割合  
【資料：静岡県の自動車保有台数】

▼混雑している道路があります

2015（平成27）年度全国道路・街路交通情勢調査によると、国道150号の交通量が多く、大覚寺3丁目では48,018台/日でした。混雑度（自動車通行可能最大量に対する実際の通行量の割合）も一般国道、主要地方道焼津榛原線（飯淵）、県道静岡焼津線（焼津5丁目）、主要地方道焼津森線（八楠）などで1.0以上となっています。



平日24時間混雑度1以上の地点

注) 混雑度とは自動車通行可能最大量に対する実際の通行量の割合を示している。1.0以上（斜体）は混雑していると見なせる。

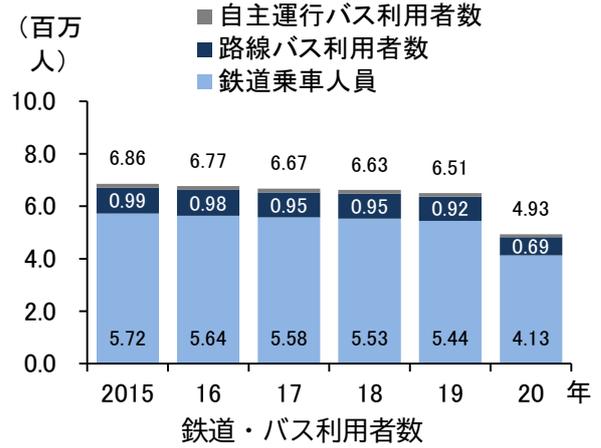
【資料：2015（平成27）年度全国道路・街路交通情勢調査】

▼鉄道とバスの利用者が減少しています

市内には、JR 東海道本線と、しずてつジャストライン(株)の路線バス 6 路線、本市の自主運行バス 2 路線が運行しています。しかし、モータリゼーションの進展などにより、鉄道・バスともに利用者数は減少傾向にあります。

市内の公共交通機関	
項目	駅・路線
JR 東海道本線	焼津駅、西焼津駅
しずてつジャストライン(株)	焼津岡部線、一色和田浜線、焼津大島線、五十海大住線、藤枝相良線、藤枝吉永線
焼津市自主運行バス	焼津循環線、大井川焼津線

【資料：焼津市地域公共交通網形成計画】

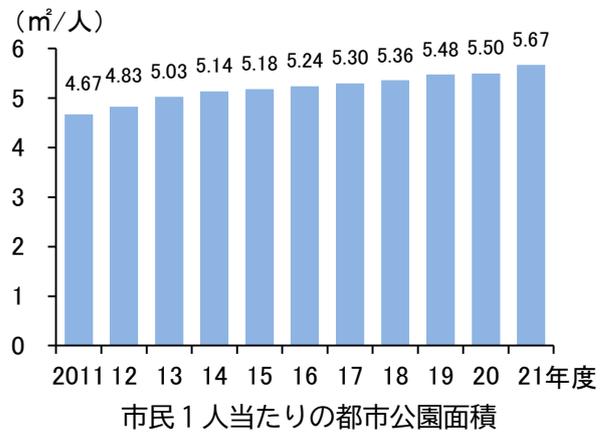


【資料：統計やいづ】

2-4 | 緑地

▼都市公園は着実に整備が進んでいます

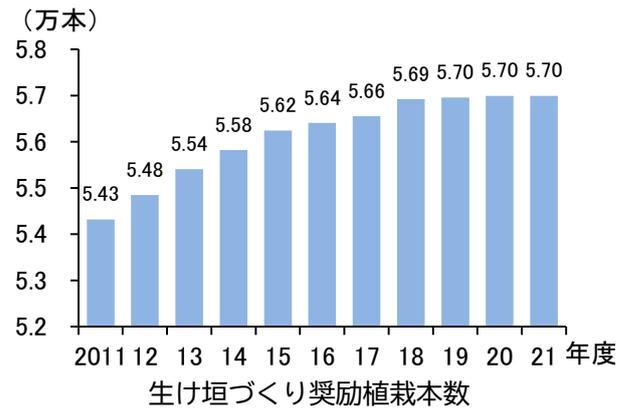
本市では、運動公園 1 箇所、総合公園 1 箇所、地区公園 2 箇所、近隣公園 10 箇所、街区公園 116 箇所及び都市緑地 9 箇所の計 139 箇所の都市公園を開設しています。2021 (令和 3) 年度の市民 1 人当たりの都市公園面積は 5.67m<sup>2</sup> であり、毎年度少しずつ増加しています。



【資料：焼津市の環境】

▼生け垣づくりを奨励しています

緑のまちづくりを推進するとともに、地震など災害時の被害拡大を防止するため、市では、生け垣づくりをする市内移住者、または市内に住宅用地を有する個人に対して補助金の交付事業を行っています。1980 (昭和 55) 年度から 2021 (令和 3) 年度までの間に、56,993 本分の助成を行っています。



【資料：焼津市の環境】

▼一定規模以上の事業場等の緑化が条例で定められています

敷地面積が 500m<sup>2</sup> 以上の開発行為等 (事業場の新設及び増改設) を行う事業者 (工場、事務所、店舗、共同住宅、その他の事業場) は、「焼津市みどりを育てる条例」に規定された緑化面積 (敷地面積の 10% 以上) を確保するため、市への緑化計画書の提出が必要です。

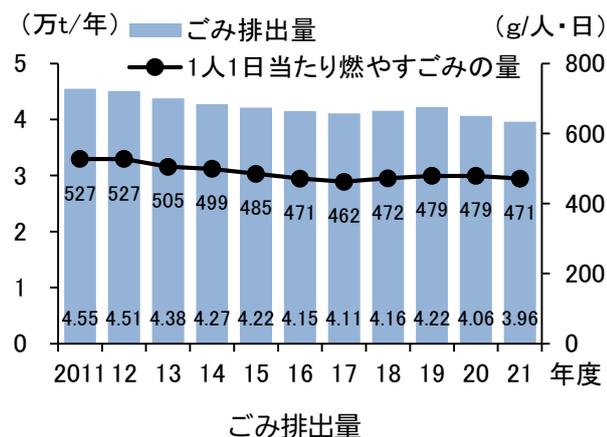
## 第3節 循環型社会



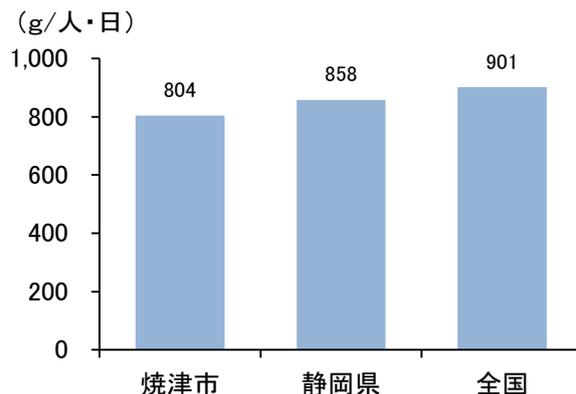
### 3-1 | 廃棄物の減量・資源化

#### ▼ごみ排出量は減少しています

2021（令和3）年度のごみ排出量（燃やすごみ、資源ごみを含む）は39,642tであり、1人1日当たりの燃やすごみの量は471g/人・日です。ごみ排出量及び1人1日当たりの燃やすごみの量は2011（平成23）年度以降、緩やかに減少していましたが、1人1日当たりの燃やすごみの量はここ数年横ばいで推移しています。2020（令和2）年度における家庭系ごみと事業系ごみの合計した1人1日当たりごみ排出量は804g/人・日であり、静岡県平均（858g/人・日）、全国平均（901g/人・日）よりも少なくなっています。静岡県内ランキングは10位（35市町中）でした。



【資料：志太広域事務組合ごみ排出量実績資料】



1人1日当たりごみ排出量の比較（2020年度）

【資料：一般廃棄物処理実態調査】

#### ▼生ごみを減らすための取り組みを推進しています

本市では、1993（平成5）年度から家庭より排出される生ごみを自ら処理することによって、ごみを減らしながら堆肥が作れる生ごみ処理容器の購入補助をはじめました。1999（平成11）年度からは、電気式生ごみ処理機を追加し、購入補助を行っています。

また、黒土を使った生ごみ処理容器「キエーロ」の普及に取り組んでいます。黒土を利用した生ごみ処理は、日光と風の力を利用し黒土の中に生息するバクテリアが生ごみを分解し自然に戻します。黒土に生ごみを混ぜるだけなので手間が少ない方法となっています。そのほか、2020（令和2）年度からは、さば節の製造工程で発生する菌を利用した新生ごみ処理容器のモニター事業に取り組んでいます。

さらに、食材を効率的に調理し、生ごみを極力出さないアイデア料理の使い切りレシピコンテストを開催し、食品ロス対策も同時に推進しています。

#### コラム



### さば節を活用した新生ごみ処理容器のモニター事業

市内のさば節製造業者が、さば節の製造工程で発生する菌を使った生ごみ処理の母材を開発し、実用化を目指しています。この新生ごみ処理容器は、母材中の微生物が生ごみを分解させ、生ごみが消えて無くなるというものです。本市では、燃やすごみを削減する新たなツールの一つとして、利用者のモニターを募集して、取り組みを推進しています。



▼剪定枝葉等の資源化を図っています

本市では、家庭などから発生する木くずや剪定枝、落ち葉、雑草などを、週2回の燃やすごみの日に回収し、製紙原料や燃料となる木質チップに資源化しています。

3-2 | 廃棄物の回収・適正処理・環境美化

▼容器包装プラスチックなどの分別回収を実施しています

ごみの減量と資源の再利用を推進するため、分別収集・回収を実施しています。特に、資源物は、容器包装プラスチックや剪定枝、ペットボトル、紙類などに細分別して回収しています。

また、市内各自治会のごみ出し日とごみの種類をスマートフォンやタブレットで簡単に確認できるごみの日情報アプリ「5374(ごみなし)焼津」を運用しています。

分別収集の内容

燃やすごみ	生ごみ、その他	週2回収集
資源物	木くず、剪定枝	週2回収集
	容器包装プラスチック	週1回収集
	紙類、古着・古布、びん、缶、ペットボトル、プラスチック製品、廃食用油、蛍光灯・電球・電池・鏡・陶器類・ガラス、その他燃えないもの	月1回収集
	リユース古着、使用済み小型家電(携帯電話・スマートフォン・デジタルカメラ・ゲーム機など)、プリンターインクカートリッジ	特別収集

【資料：焼津市ウェブサイト】

▼古紙等の集団回収奨励金を交付しています

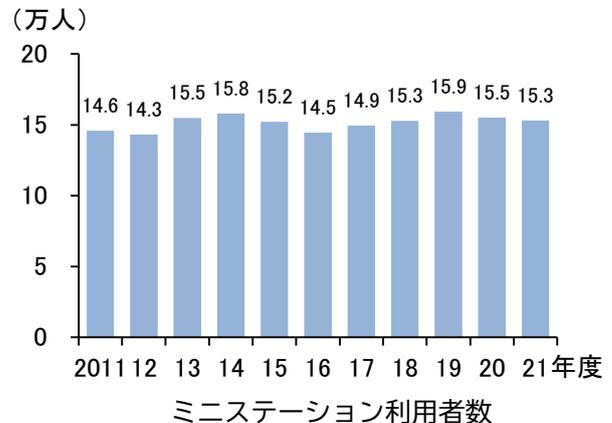
本市では、1991(平成3)年度から古紙等の集団回収を実施した団体に奨励金を交付しています。奨励金交付対象団体は、自治会、子ども会、老人会、PTAなどの地域市民団体で、対象となる資源物は、古紙類(新聞紙、牛乳パック、ダンボール、雑誌など)、繊維類(衣類、タオル、シーツ)です。2021(令和3)年度の集団回収量は、1,431.8tであり、近年は減少していますが、これは民間企業が設置しているコンテナに古紙類を排出する市民が増えていることが原因と考えられます。



【資料：焼津市の環境】

▼ミニステーションを開設しています

市内に現在3箇所(東益津、小屋敷、利右衛門)あるミニステーションでは、資源物の常時回収(木～日曜日)を行うことにより、市民サービスの向上に努めるとともに、資源の有効利用の促進とリサイクルの推進を図っています。



【資料：焼津市の環境】

▼廃食用油の回収を実施しています

本市では、河川の水質汚濁の防止やリサイクルの観点から、廃食用油の回収事業を実施しています。2021（令和3）年度の回収量は33,050ℓであり、近年は増加しています。



【資料：焼津市の環境】

▼小型家電のリサイクルを行っています

本市では、「使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律」（小型家電リサイクル法）に基づき、小型家電製品の回収を行っています。市役所本庁舎、公民館、ミニステーションに回収ボックスを設置し、回収した小型家電製品は、国が認定したリサイクル事業者に引きわたし、適正なりサイクル処理が行われます。

▼市が発注する公共工事は環境負荷の低減を図っています

市が発注する公共工事は、安全で快適なまちづくりに必要不可欠なものですが、様々な環境負荷を発生させる要因を持っている場合があります。このため、住環境等への影響、自然環境の保全、緑化の推進、省資源・省エネルギー対策、環境負荷の少ない建設資材の利用促進などに配慮し、環境保全対策及び建設副産物等についての取り組み強化を推進し、環境負荷の低減を図っています。

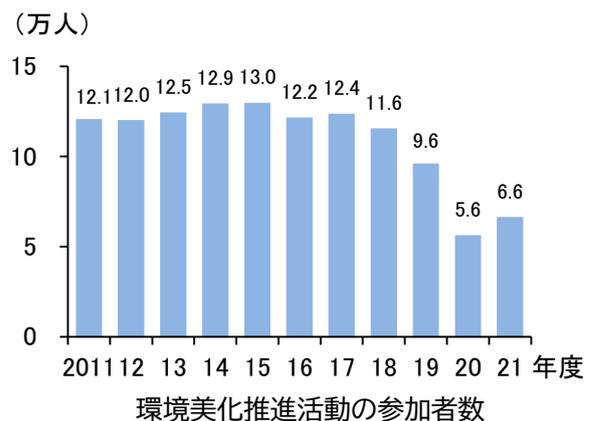
▼環境美化推進条例を施行しています

本市では、「焼津市環境美化推進条例」（2008（平成20）年10月改正）を制定し、ごみのポイ捨てや散乱、犬のふんの放置や落書きなどの防止を図っています。しかしながら、一部の飼い主がふんを放置して立ち去ってしまうことがあるため、ペットの飼い方マナーに対する苦情や相談は無くなっていません。

▼環境美化推進活動が行われています

環境美化推進活動には、毎年10万人前後が参加しています。このうち、市と「焼津市まちをきれいにする運動推進協議会」の共催で毎年11月に開催している海岸一斉清掃「やいづビーチクリーン大作戦」には約4,000人の市民が参加しています。また、市内では、主に春と夏、地域の皆さんによる環境美化活動を実施しています。

環境美化推進活動の参加者数は、ここ数年、新型コロナウイルスの影響で減少しています。



【資料：焼津市の環境】

## 第4節 自然共生社会



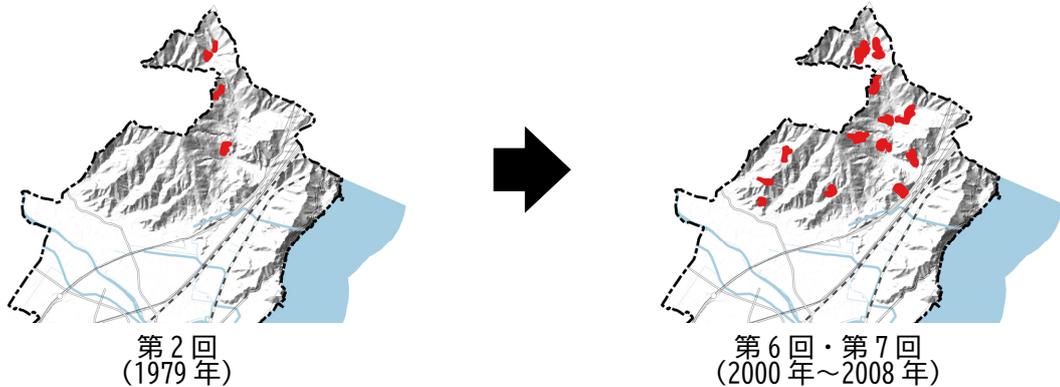
### 4-1 | 森林・農地

#### ▼放置された森林があります

本市の森林面積は387.31ha（全て民有林）で、市の総面積（7,031ha）に占める森林率は5.5%です。民有林のうち、スギを主体とした人工林は228.8haであり、人工林率は59.1%です。しかし、産業構造やライフスタイルなどの変化から、森林との関わりは希薄となっており、林業への従事者、生業者もほとんどなく、放置されたままの森林が見受けられます。

#### ▼竹林が拡大しています

山間部での放棄竹林の拡大による生物多様性への影響が懸念されています。環境省の「自然環境保全基礎調査」の第7回調査の竹林（約27.9ha）は第2回調査（約4.2ha）の約7倍に増加していました。竹林の分布個所も市北部の山間部を中心に広がっています。竹林に変化した場所は、人工林（40.6%）、果樹園（27.5%）、常緑広葉樹林（13.8%）、茶畑（7.5%）などが多く、人の手入れが行き届かなくなった場所に竹林が拡大していることが分かります。

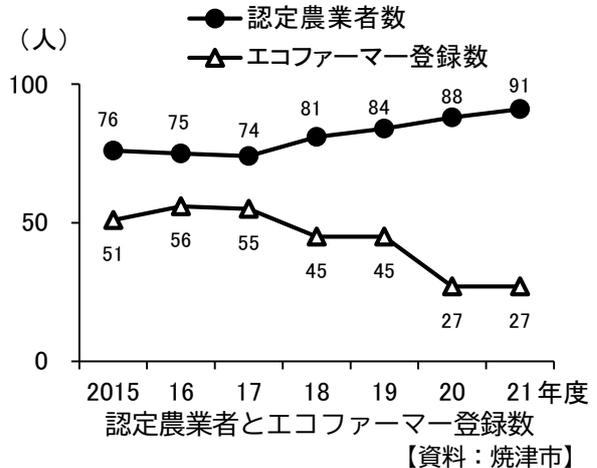
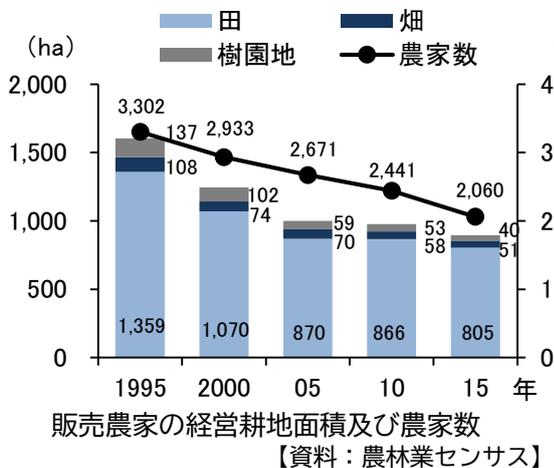


竹林の拡大

【資料：自然環境保全基礎調査・植生調査結果（第2回、第6回・第7回）GISデータより作成】

#### ▼農家数と販売農家の経営耕地面積が大きく減少しています

農家数は年々減少しており、1995（平成7）～2015（平成27）年の間に約38%も減少しました。それに伴って販売農家の経営耕地面積も減少しており、特に田の減少が著しくなっています。また、近年は認定農業者数が増加しているものの、エコファーマー登録数は減少しています。



## 4-2 | 河川・海岸・水資源

### ▼勾配が緩やかで、潮位の影響を受けやすい感潮河川があります

市内には、一級河川の大井川、二級河川が 12 河川、準用河川が 16 河川、これらに含まれない普通河川があります。特に、一級河川の大井川は、静岡県最北端に位置する間ノ岳 (3,189m) にその源を発し、寸又川をはじめ多くの支流を併せながら南流して駿河湾に注ぐ、延長 168.29km、流域面積 1,280km<sup>2</sup> に及ぶ河川です。また、二級河川の瀬戸川や栢山川、志太田中川などの中小河川が多いことも特徴です。

市内の大部分の河川は勾配が緩やかで最下流部に位置するため、潮位の影響を受けやすい感潮河川となっています。また、近年の気候変動の影響による水害の頻発・激甚化が懸念されています。

### ▼海岸の侵食が問題となっています

本市には大崩海岸と駿河海岸があります。大崩海岸は、海底火山の噴火でできた溶岩が波で削られて断崖になっており、磯がみられます。一方、駿河海岸は砂礫の海岸ですが、大井川上流のダム建設や砂利採取などによって土砂供給量が減少し、海岸侵食が問題となっています。

### ▼大井川水系の豊富な地下水に恵まれていますが、水資源の減少が懸念されています

大井川の流域に位置している本市の上水道は、地下水に恵まれ、水源の約 85%は深井戸からの地下水、約 15%は大井川広域水道企業団からの受水により賄っています。主要水源である深井戸は市内 35 箇所あり、安定した取水ができています。

なお、大井川の水は流域市町的生活用水や工業・農業・養殖などの産業用水として広く活用されていますが、近年、少雨による上流ダム貯水量の減少に伴い取水対策が行われることがあるなど水資源の減少が懸念されています。

### ▼湧水が自噴している場所が減ってきています

「静岡県のわき水マップ～湧水版レッドデータ～」(2002(平成14)年3月)によると、市内には 27 箇所の湧水地点が確認されていましたが、そのうちの 6 地点は「なくなったわき水」、3 地点は「減っているわき水」とされているなど、湧水が減ってきています。

現在でも自噴している代表的な湧水として「静岡県の湧き水 100」では、「成道寺地蔵の泉」「吉永コミュニティパークの井戸」「大井川港緑地公園」の 3 地点が紹介されていますが、これらはいずれも大井川下流部に位置します。



吉永コミュニティパーク  
の湧水

### ▼駿河湾の海洋深層水が利用されています

静岡県は 2001(平成13)年9月、焼津新港(焼津市鰐ヶ島)に、陸上から海洋深層水を取水するための「駿河湾深層水取水供給施設」を整備しました。施設には、海洋深層水の取水と各施設への送水及び一般への給水用の設備を備えています。ここでは、駿河湾の水深 397m と水深 270m(推定)の 2 系統から黒潮系深層水を取水しています。

海洋深層水が持つ「低温安定性」「清浄性」「高栄養性」などの特徴を活かして、水産業をはじめ、食品の製造加工分野、医療分野、美容・健康など様々な場面で海洋深層水が利用されています。